

令和元年 岡山学芸館創立60周年

日本人精神をつなぐ



学校法人 森教育学園

岡山学芸館高等学校

〒704-8502 岡山県岡山市東区西大寺上1丁目19-19 TEL 086-942-3864



約束

私たちは生徒を信じます。
すべての生徒の「可能性」を信じます。

だから、私たちはあきらめません。
教職員全員が毎日、生徒と真剣勝負です。
人生をかけて、生きるとは、を語ります。
日本人としての
善悪の基準を身につけさせます。

相手を信じ、育てようとする力と、
生徒の秘めた力が
化学変化を起こした時、
とてつもないパワーが生まれることを
身をもって体験してきました。

彼らがやがて社会人となり、
立派な日本人として
日本の再生を担うことができるように！。

私たちは、絶対にあきらめないのです。

令和元年。さらに続く。
心を一つに。



なんのために私学をやっているのか、
自分の言葉で言えるようになった。

安心したよ。

思い切ったことをやっても、
クッションになってもらえる。

ありがたい。



誇りを持った日本人を育てる。

それが学芸館の教育であり、良心、信念だ。

校長 創立60周年。総括すると？

理事長 私学の強みを生かし、独自の価値観教育を貫いて60年。道のりは険しいものだったがけれど、今や多くの生徒や保護者、地域、政財界から「なくてはならない存在」と言っていただけになった。

校長 平成5年のSⅠ導入から理事長は学園改革の陣頭指揮を執り、苦しい時期を経て、理想とする教育の基礎をつくってきた。名実共に学芸館が大きく変わったのは、創立50周年事業で清秀中学校・高等部を開校してから。学園の雰囲気や生徒の評判が高まり、進学や部活の実績と共に注目され評価されるようになった。

理事長 逆風が追い風に変った。

校長 同じ頃、企業の経営者の方々が「これから世界と競っていくには、学芸館の教育が必要だ」と子弟を送り込んでくださった。その流れは今も続いている。

理事長 戦後の「自虐史観」は、みずからを貶める考え方。自分の国に誇りを持たず、自己肯定感の低い国民。そんな国は世界中どこにもない。日本の文化・歴史の素晴らしさを学び、誇りを持った立派な日本人を育てる。それが学芸館の教育であり良心、信念だ。

校長 終戦から時間の経過と共にいろいろなものが見直しが始まり、「今の日本はおかしい」という声が広がってきた。「伝統的価値観や教育観」が再評価され、学芸館の教育への追い風となった。逆に言えば、先見の明があったということ。

理事長 全国の先進校の素晴らしい経営者に出会い、

目指すモデルがあったことと、スポーツマンとしての負けじ魂。その2つが、逆風に負けない力だった。

校長 最近、自分の息子（中3）を見ていて、言い出したら聞かない、我が道を突き進む。これこそ理事長のDNAだと。得体のしれない推進力（笑）。

理事長 どこかでスイッチが入ったら、バーンとやりだすんだよ、そういう子供は。

校長 僕が子供のとき、勉強しろと言われたことがなくて、生活や自然の中でさまざまな体験をし、大切なことを学びながら、どんな活動でも信じて任せてもらった。自分が親になって同じように子供に接するし、学芸館の教育にも脈々と思っていると感じるよ。

根っこを育ててやる気を引き出す

理事長 子供に「勉強しろ」と強制しても、本人にやる気がなければなんの効果もない。日本の高校で初めて『7つの習慣』を導入したのは、そのため。生徒のやる気を引き出すには、日本人としての根っこを育てること。日本人の倫理と道徳観。学芸館での本学だ。

校長 『7つの習慣』には宗教や文化の違いを超えて、より良い人生を送るためのキーワードが盛り込まれているよね。以前、進学指導の先生から「教科授業を増やしたいので『7つの習慣』の授業を減らしたい」と

相談されたとき、「できない」と即答した。今、学芸館に求められているのは、立派な日本人を育てるという人間教育。今後も『7つの習慣』は絶対に外さない。

理事長 その話を後から聞いて安心したよ。私学経営で最も大事なことは教育理念、志の継承だから。なんのために私学をやっているのか、自分の言葉で言えるようになったなど。あとは、学芸館への期待にどうこたえていくか。160人の教員一人ひとりをどうレベルアップしていくかにかかっている。

校長 先生からの提案には、よほどのことがない限り「NO」を言わないで、どうやったらやれるかを一緒に考える。先生たちのやる気が失われた瞬間、学園の推進力は落ちるからね。「あとは俺が責任とるから」と言えば、先生方は安心して力を発揮できる。

理事長 そのとおり。俺もことあるごとに「できないではなく、どうすればできるかを考えろ」と言い続けてきた。学芸館の伝統だ。その調子で頼むよ。

校長 3代目のプレッシャーを感じないでいられるのは、理事長が後ろ盾になってくれているから。思い切ったことをやっても、クッションになってもらえる。ありがたい。これからもよろしくお願いします。

*7つの習慣」は、アメリカのスタイブン・R・コビー博士が各分野で成功した人物について調査し、人が成功するために必要な能力を「7つの習慣」としてまとめ、教育プログラムとして開発したもの。世界95カ国の企業研修に活用され、高く評価されている。



森 健太郎（写真左）

岡山市出身。明治学院大学卒。シドニー工科大学附属インターサーチランゲージセンター終了。平成5年から本校勤務。平成24年から本校校長、平成25年から清秀中学校・高等部校長。

森 靖喜（写真右）

岡山市出身。明治大学大学院卒。昭和43年から本校社会科教員となり、昭和61年に本校校長。平成元年から学校法人森教育学園理事長。平成22年から28年まで岡山県私学協会会長。



令和初の甲子園出場を決めた野球部。4年ぶりの代表選出に就任1年目の佐藤監督と抱き合って喜ぶ理事長

『人は生涯で出会わなければならない人と必ず出会える！』

私には、お教え・ご示唆くださった大切な方がおられます。
学園を改革していくためにこの上ない出会いでした。

理事長 森 靖喜

岡山学芸館高等学校

建学の精神

世界で活躍できる立派な日本人を育てる

教育理念

清明な心、正直な心、誠実な心を基本とした
日本人精神を養う

学園の信条6カ条

温かい「情誼」に充ちた学園

知性と教養豊かな学園

健康にして明朗な気風あふる学園

礼儀を身につけ、感謝と協力を実践する学園

個性を限りなく伸ばす学園

郷土を愛し、愛国の心を大切にする学園

私には、お教え・ご示唆くださった方が大勢おられますが、中でも、台湾を民主的な近代国家に変身させた台湾元総統李登輝閣下と、奇美実業創業者で台湾の松下幸之助と評される許文龍会長、イエローハット創業者で日本を美しくする会（前・掃除に学ぶ会）の鍵山秀三郎会長との出会いは、学園を改革していくためにこの上ないものでした。

李登輝閣下

「日本の武士道は、今現在、世界で
通用する最高の倫理観である」

平成15年（2003）、産経新聞社の第1回
「李登輝学校」に李登輝閣下の『武士道解題』
がご縁で参加させていただきました。私にとつ
て外国のプレゼデントと直に接する初めての機
会であり、緊張しながら拝聴した数時間も、終
了後のパーティーも、楽しいものでした。以後
十数年、毎年のように閣下にお目にかかり、お
教えを受けました。

講義では、「なぜ台湾と日本は一体となる政

治・経済・外交が必要なのか」という話に続き、
日清戦争後の日本統治下で八田與一技師による
「烏山頭ダム」建設で嘉南平野が穀倉地帯に変
身した史実などを例に引き、台湾の近代化の基
礎を創った日本の努力を高く評価されました。
戦後の日本の歴史教育は日本が「アジアを侵略
した」が定義でしたので、その真逆のお話に感
動しました。

そして、私にとって忘れることのできない教
えとなったのが、「日本の武士道は、今現在、
世界で通用する最高の倫理観である」というお
言葉です。この教えを得て、保守的な本学園の
教育理念に心底から自信を持つことができたの
でした。

本学園では毎年、生徒、保護者も一緒に台湾
研修を行っており、日本の近現代史を学び直す
素晴らしい機会となっています。

許文龍会長

「日本のお陰で台湾は

近代国家になれたのです」

『日本人はダメだねー。台湾に来た日本人は
「昔、日本は台湾を植民地にしてすみません」
と謝るんだよ。日本人は、戦前に台湾・朝鮮を
植民地支配して人々を苦しめた、と教えられて
いるが、それは間違いですよ。私は日本の統治
時代を、身を持って経験しているが、オラン
ダ・清国、蒋介石の中華民国の統治の歴史の中
で、日本の統治は最も素晴らしいものでしたよ。
日本のお陰で台湾は近代国家になれたのです』。
うれしい講義でした。

学園の正面玄関にある、『武士道』の著者
「新渡戸稲造」の胸像は、許会長が「学芸館は
素晴らしい教育をしている」と高く評価して手
作りで寄贈してくださったものです。新渡戸稲
造博士は、台湾の製糖業を興し、台湾の近代化
に大きく貢献しました。

許文龍会長が私財二百数十億を投じて台南市
に建設した「奇美博物館」は、子供も年寄りも
楽しめる台湾ナンバーワンの博物館です。

鍵山秀三郎会長

「凡時徹底」

「平凡な事を非凡に努めよう」

鍵山秀三郎会長との出会いは、平成13年
（2001）の冬、突然「貴校のトイレを掃除
させてほしい」という電話がきっかけです。本
学園が、岡山県内で最初の「掃除に学ぶ会例
会」とのことでした。

当日、例会参加のために来校された会員の方
には、企業の経営者の方も多く、全員でトイレ
をピカピカにされました。寒い冬でしたが、鍵
山会長みずからズボンを膝までたくしあげ、裸
足になって掃除に集中されている姿に、驚きと
感動を覚えました。

早速、学園は「掃除に学ぶ会」に入会。わが
学園のトイレ掃除から、近くの小学校、中学校
を始め近隣の学校に向き、教職員・生徒と共
に「学ぶ会」の会員に指導を受けながら奉仕作
業を続けました。ノウハウを蓄積できた現在で
は、学園独自で例会を開催しています。お陰で
学園のトイレはどこにも負けない「ピカピカ」
で、生徒のマナーは最高レベルになりました。

鍵山会長の教えは「凡時徹底」「平凡な事を
非凡に努めよう」です。これは企業経営だけで
なく、本学園の教育方針「立派な日本人の育

成」に相通ずる理念であります。凡時徹底、継
続は「10年偉大なり」「20年畏るべし」「30年
歴史になる」の教えを大切にしております。
10年前の学園創立50周年記念式典では「凡事
徹底」と題する基調講演をお願いしました。



94歳の李登輝閣下と台北市内のご自宅で

おばあちゃん先生は学園の守り役。

生徒一人ひとりの成長が楽しみな毎日です。みんな幸せになあれ!!



てなしの心を伝えます。お菓子にも季節を取り入れる日本人の気配りを知ってほしいです。

五 三つ子の魂百までも

性教育では、生きる心を教えます。三つ子の魂百までも。今日元気で学校に通っている自分を自覚し、親に感謝します。男女交際のマナーと信頼・責任・感謝の大切さを伝えます。

生徒や親の悩みを聴く教育相談は私の一番大事な仕事です

六 親学講座

親学講座は開講10年を迎えました。107回目は竹田恒泰先生のお話です。親と子が同じ学びを通して、家庭での良い語らいにしてほしいです。

七 学芸館スクールナビ

R S K山陽放送ラジオ「学芸館スクールナビ」がスタートして10年が過ぎました。生徒の活躍ぶり、学校の様子、私の話を含めて広くリスナーの方々にお伝えしたく、毎週火曜日の13時20分から10分間続けています。感動が伝わります。

八 ほっとルーム

ほっとルームを創設して21年。多くの生徒、保護者の悩みと向き合ってきました。教育相談は私の一番大事な仕事です。お母さんを抱きしめ、お父さんと握手をしています。親が気づいて変われば、子供は変わります。愛されたい、ほめられたい、抱きしめられたいのですね。

おばあちゃん先生は学園の守り役です。『孫』である生

徒一人ひとりの成長が楽しみな毎日です。みんな幸せになあれ!!

入学式5つのお願い

1 夫婦仲良く

夫婦協力して子育ての総仕上げをしてください。親の生き方を見せてください。

2 お弁当は愛です

子供のことを考えながら作ってください。お弁当箱を開けたとき、その気持ちは子供に伝わります。赤青黄。オール茶色はダメですよ。卵焼きは必ず。母の味です。

3 家族の問題です

問題行動が起きたら、両親、家族で来校してください。子供の一生にかかわる一大事です。お父さんは会社を休んでスーツとネクタイでお越しください。

4 服装はTPOで

服装は相手に対する思いやりであり敬意です。子供にTPOを教えるのも親の務めです。学校はフォーマルな場。ふさわしい服装でお越しください。

5 登校は子供の足で

部活などで遅くなるときの迎えは仕方ありません。朝は子供の足で登校させましょう。子供が自分で選んだ学校です。甘やかしは子供の成長を妨げます。

森 美智子

大阪府出身。武庫川女子短期大学卒。「岡山いのちの電話」広報部長や岡山家庭裁判所調停委員、育児相談員などを経て、平成8年から本校保護者教育相談員。参与。



令和元年度の入学式。501名の新入生と800名の保護者に出席していただき、全員で新たなスタートを切りました（写真提供：フォトスタジオみどりや）

入学式 保護者の感想

「感動」「驚き」「カルチャーショック」の連続。規範性が驚くほど高く、品格が感じられた。心より新入生を迎えてくださった意気込みを感じ、親として安心した。（父親）

長い入学式でしたが、内容が濃く、素晴らしいものでした。娘も同級生の皆もきつと同じように感じて、高校生初めての日が素敵なものとなったと思います。（母親）

参与の厳しくも優しい言葉は、生ぬるく生活してきた中学生意識を、自立心が求められる高校生に切り替えるスイッチのように感じ、子供も私も背筋が伸びた。（父親）

この学校を選んでよかった。何のために学習するのが、生活や社会のルールを守る意味等、人生の基礎となる考え方を身に着けることができたと確信しました。（母親）

子供が「学芸館に行きたい」「県立は受けない」と言った理由が分かった気がしました。学校の方針、先生方の対応、生徒の皆さんの対応はすべて素晴らしい。（母親）

参与の「5つのお願い」を聞き、夫婦でしっかりわが子を支えようと身が引き締まる思いでした。子供と共に学び、成長したい。（父親）

私は学園に入って23年、いつも保護者の目線で理想の学園を目指してきました。

一 オープンハウス

4月、ほっとルームオープンハウスから始まります。新入生の生徒、保護者の皆様から入学式前に個人的に学校担任に伝えておきたいことや悩みを聴かせていただきます。思春期の難しさを学校と家庭で共有します。

二 入学式3時間

人間関係の基礎基本は「信頼」です。信頼を得るための絶好の機会が入学式です。保護者に「学芸館の教育理念」を理解してもらう。「学芸館に行きたい」と言った子供の気持ちを分かってもらおう。帰り道「この学校で良かった」と安心してもらう。そのための3時間です。私は入学式、式後の行事で、学園と保護者、生徒の皆様との約束、お願いを5つ申し上げます。

三 笑顔のあいさつ

新入生には「笑顔のあいさつ」がまず初めのレッスン1です。型から入ります。型通りにできているかどうか、各クラスを回って確かめます。ちよつと立ち止まってごあいさつ、ステキです。

四 マナー講座

マナー講座では、茶道裏千家のお菓子とお茶のいただき方と和室の作法を教えます。「笑わない・しゃべらない・しびれを我慢する」が約束です。日本人のおも

「しょうらいのゆめはけいさつかん」と作文に書いた小学1年生。
16年後、家族のだれもが驚く中、岡山県警所属の警察官となった。



君の望む君は、
正しいことが堂々で行える人

「しょうらいのゆめはけいさつかん」と作文に書いた小学1年生。サスペンスドラマが好きで、警察官に憧れた。大きくなるにつれ、正義感が影を潜めた。周りに合わせ、主張しない。強くない自分を守るための術。いつか夢も消えていた。そんな私が、学芸館高校で変わった。学級委員を3年間。リーダーを任された。和太鼓部でステージに立ち、放送部でアナウンスを担った。みんなの前に出て、堂々と自分を表現できるようになった。大学4年生の就職活動で、自分の夢を取り戻した。「わたし、警察官になる！」。家族のだれもが驚く中、公務員試験に合格。岡山県警所属の警察官となった。 矢原綾乃

「警察官になりたい」後輩から
「警察官になった」先輩へ

柚本 あのとときはありがとうございました。高校3年の進路相談で「将来は警察官になりたい」と言ったら、小笠原先生が「警察官になった女性の先輩がいるよ」って、矢原さんを紹介してくれて。数日後に電話でいろいろと話を聞かせてもらったんですよ。

矢原 柚本さんの質問にこたえられるか自信はなかったけれど、警官を志している後輩がいると聞いてすぐうれしくて、役に立てるのならと連絡したんです。

芸館に入学していなかったら、たぶん岡大合格は無理でした（笑）。

矢原 自分は未熟で力不足の点多々ありますが、警察官をやめようと思ったことは一度もありません。信頼できる先輩や支えあえる同僚がいて、なんでも相談できる恵まれた環境です。岡山県警では、女性ならではの視点を生かそうと積極的に取り組んでいて、女性警察官の割合が増えているんですよ。柚本さんが警察官の制服を着て加わってくれる日が楽しみです。

矢原綾乃（写真左）
備前市出身。平成24年本校 医進コース卒。在学中は和太鼓部、放送部に所属。東京の大学へ進学し、平成30年岡山県警察に就職。

柚本真世（写真右）
和気郡出身。平成30年本校 英語科卒。在学中はオーストラリア・シドニーに1ヵ年留学。現在、岡山大学法学部1年生。

出る杭は打たれるけれど
出ってしまった杭は打たれない

柚本 「なりたい気持ち」だけで警察官を目指しているのかが一番の不安でした。矢原さんの「具体的なことは警察学校に入って教わるから心配しないで。大学に進学していろいろな知識や経験を得ることが大切」というアドバイスで安心しました。

矢原 岡山駅の交番勤務をしていると、外国の方がたくさん相談に来ます。英語でのコミュニケーションがますます大事になってきています。柚本さんは英語科で1年間留学しているでしょ。その経験や高い英語力は強みになりますよ。

柚本 そうですか！ ちょっと自信になります（笑）。

矢原 学芸館に入学したばかりの頃、参与が講話の中で「出る杭は打たれるけど、出しまえば打たれません。出すぎたら引っこ抜かれるから、そこを注意すれば大丈夫」と言われたことが印象に残っています。中学校時代は自分を抑えていつも一歩引いていたから。柚本 私も中学校時代は周りの空気を読んでその場に合わせるタイプでした。あのとさどうして自分の意見を言わなかったんだろうって後悔があります。

矢原 学芸館は前向きな生徒が多く、いじめもない。安心して自分を出せる環境です。人前に出る経験をたくさん積んで、自信ができました。実は大学時代に弁護士事務所でアルバイトをして、それが警察官を目指す動機付けになったんですが、そもそも弁護士事務所の面接に受かったのは、「あいさつや礼儀がきちんと



「先輩のアドバイスを聞いて安心しました」（柚本、写真右）

している」と評価してもらえたからなんですよ。

柚本 マナー講座で身に着けたおかげですねー（笑）。

矢原 「君の望む君になれる」という言葉が好きなんです。将来の仕事を選ぶとき、失敗を恐れて無難な道に進むのではなく、興味を持てること、面白いと思えることにチャレンジしよう。一歩を踏み出そうと行動できた。学芸館での経験があったからだと思います。柚本さんはどんな警察官になりたいんですか。

柚本 西日本豪雨のときに活躍する姿を見て警察官になりたいと思ったので、やはりそこを目指したいです。そもそも岡山大学に進んだのは、岡山県警に入るという目標のため。私は受験勉強が得意じゃないので、学



あいさつ運動
「笑顔であいさつ」を教職員と全生徒で徹底して実践。お辞儀の角度、両手の位置などの型を1年生の授業で身に着ける。



マナー講座
茶道を通して日本の伝統文化や礼儀作法を学び、マナーは相手に対する思いやりであると理解する。

君の望む君は、 好きなことに全力で取り組む人

楽器を始めたのは学芸館の吹奏楽部に入ってから。あれほど濃密に音楽と
かわらなければ、今の自分はいなかった。音楽に支えられている。



楽器を始めたのは学芸館の吹奏楽部に入ってから。早くみんなに追いつきたくて来る日も来る日も練習した。2年生で全国大会の舞台上に上がり、学芸館吹奏楽部初の金賞を受賞。全員号泣の感動を味わった。でも、部長として臨んだ翌年、全国大会出場を逃し、責任を痛感。悔しさを晴らすように、進学した早稲田大学でオーケストラ（早稲オケ）の活動に没頭した。350人の大所帯。演者だけでなく運営の中核にも携わった経験を買われ、卒業後は医療機器メーカーに就職。営業という仕事に面白さも難しさも感じる日々。もしあれほど濃密に音楽とかわらなければ、今の自分はいなかった。音楽に支えられている。大森信明

とりこぼした悔しさが次につながる

中川 学芸館吹奏楽部の「初金」は、うれしくもほろ苦い思い出。僕が最後の最後に指揮をミスして、終わった後に控室代わりのバスの中で「申し訳ない」と謝って、みんなはみんな「自分も悪かった」と大泣き。それが、まさかの金賞受賞。本当に丁寧に一言、大切に、熱のこもった演奏だったことが評価されたんだと思う。

大森 あの日のことは強烈に覚えています。全員で同じ方向に向かう力が、音に出ていた。一体感がすごかった。なのに、次の年、自分は部長として責任を果

たせなかった。チームを一つにまとめられなかった。

中川 全国大会を逃したときの信の顔を覚えてるよ。つらそうな悔しそうな、なんともいえない表情だった。

大森 早稲田大学を目指したのはオーケストラがあったから。このままじゃ終われないという思いでした。

中川 僕も同じ。自分自身が高3の最後のチャンスに全国大会に出られなかった。遂げられなかった思いが、指導者として普門館（全日本吹奏楽コンクールの会場として長年親しまれ、吹奏楽の聖地と呼ばれた。

2018年に解体）のステージに立つ目標になった。やるだけやった。でも、とりこぼした。その悔しさが次につながるんだよね。

高レベルの大学オケで 人事や折衝までも担う

大森 〓早稲オケ（早稲田大学交響楽団）に入団してみたら、予想よりもはるかに演奏水準が高くて、自信が打ち砕かれました。そこから猛烈にのめりこんで、2年次にはウィーンやベルリンなどを巡る1カ月の演奏旅行に参加。4年次には副楽団員代表、トランペット首席奏者などを兼務して、約350人の楽団員の人事や大学・企業との対外的な折衝も担いました。出身地も音楽観もキャリアも違う人たちと、一つのものを

どうつくりあげていくか。それだけでもかなり難しい。中川 〓早稲オケ〓は大学屈指のレベル。そんな役をこなせるなんて立派なもんだ！

大森 早稲オケを卒団した後、授業中心の大学生活のかたわら、NPO法人が運営するオーケストラにかか

わったんです。貧困にあえぐ子供たちの放課後を音楽で豊かにし、非行や犯罪から遠ざけようというもので、フィリピンでの国際交流活動に参加。音楽の教育的側面を実感しました。同時に、持続的な豊かさを実現するには、政治・経済・教育・医療・福祉など社会的なインフラが必要であると痛感したんです。早稲田大学の社会科学部で謳われている学問の意義や重要性を、実社会で体感する経験になりました。

中川 つながるねー（笑）。信はもともと真面目で努力家。部活で勉強時間が限られる中、TOEICで820のスコアをとっちゃ生徒だったからね、大したもんだ。

大森 英語は好きな科目だったので、好きなことは頑張れるんです（笑）。就職活動では、命や健康という普遍的価値のあるものに貢献したい思いが強く、早稲オケでお世話になったキャリアアドバイザーの方に勧められた縁もあって、医療機器メーカーに入社しました。

中川 音楽をやりこむことで信の中に1つの視点が生まれたんだな。僕が顧問として願うのは、学芸館の吹奏楽部で3年間、コンクールでもコンサートでも、みんなが1つのものをつくりあげていく過程で一人ひとりが目に見えない分厚いものを得ること。その糧を、大学や社会に出て個々に発展させてくれたらうれしい。どんなジャンルでもいい、その姿を見ることが一番の喜びだよ。

大森 営業の仕事は精神的な強さが必要だから、元ラグーマンとか体育会系の人が多いんですよ。もし高校大学の7年間がなかったら、自分には続けられなかつ



第66回 全日本吹奏楽コンクール全国大会 金賞
（全国大会8回連続16回出場・金賞受賞5回）
第39回・第40回・第42回
全日本アンサンブルコンテスト全国大会 金賞

中川重則（写真右）
岡山市出身。小学校でトランペットと出会う。本校英語科卒業後、大阪音楽大学に学び、演奏活動、吹奏楽指導に携わる。平成14年より本校音楽科教員、吹奏楽部顧問。

大森信明（写真左）
瀬戸内市出身。本校特別進学コース卒。元吹奏楽部部長。早稲田大学卒。平成27年、東芝メディカルシステムズ（現キヤノンメディカルシステムズ）に就職。

大森 実は同世代の人たちとアマチュアオケもやっていて……音楽には今も支えられています。

中川 よっしゃー！（笑）。

たかも。部活やオーケストラでリーダーをしたことで、上に立つ人の気持ちに分かる。クリニックの先生や病院の管理者がどんな気持ちで何を求めているかを理解できる。経験が生きているなあと感じます。あと、医療関係者には音楽好きが多いので、共通の話題で親しくなったり、院内コンサートでトランペットを吹いて気に入ってもらえたり。何が役に立つかわからない（笑）。

カッコ良さにあこがれて進んだ医学部。医大生の毎日は想像以上に大変で、体力気力が勝負。勉強だけでなく部活もやった高校生活は正解でした。

君の望む君の、 ちょっと先を行く先輩

「いつ食べて、いつ寝てるんだろう」。臨床実習で初めて踏み入れた医療現場。出会う医師はみな、そう思えるほど多忙を極めている。聞きしに勝る体育会系の世界。そして、思う。学芸館を選んで良かった。勉強だけでなく部活もやって正解だった。やりたいことを認めてくれる先生方に会えて本当に良かった、と。 宮岡満里奈

「信じてもらえた」から
頑張れた

高校生活は「楽しかった」の一言です。「チアリーディング部に入りたい」と相談したとき、「宮岡ならきっと両立できる」と先生方に認めてもらえて、勉強も部活も手を抜かずに頑張ろうと決めました。限られた時間をどう過ごすかを学べたと思います。 センター試験に失敗して落ち込んだとき、「宮岡なら次は受かる」と予備校に送り出して、いつ会っても合格する前提で話をしてくれた。「信じてもらっている」と思うと気持ちが軽くな

り、目標に向かえました。

医大生の毎日は想像以上に大変です。覚える範囲も量も膨大です。体力気力が勝負だからと、運動部を勧められる世界。私は軟式テニス部に入りました。医学部には「大学に入るまで勉強だけをしてきた」という女子も多いのですが、私はチアで鍛えられたので、あいさつや礼儀も含め楽になりました。 医大生5年目。もともとカッコ良さにあこがれて医学部に進みましたが、厳しい現実を知った今も医師になる気持ちは揺らぎません。臨床実習でとても素敵な女性の先輩医師に出会ったんです。3児の母で、どんなに忙しくても言葉や態度が安定していて変わらない。すごいなあと感動しました。尊敬できる医師像に、一歩でも近づけたら。そう思っ実習を重ねています。

宮岡満里奈

新見市出身。徳島大学医学部5年。新見第一中学校出身。医進サイエンスコース卒。寮生活を送りながら勉強とチアリーディング部を両立。卒業式では総代を務めた。



「なんでおまえがキャプテン？」——小・中学校時代の友達は驚いた。野球はうまくない。率先して動くタイプでも部員を引っ張るタイプでもない。自分にできることはなんだ？「ベンチに入れない選手が応援したくなるチーム」になろう。誰よりも声を出した。一心に練習した。笑顔を心がけた。逆転勝利で夏の甲子園出場を決めた。森嘉吉記念賞は野球部に贈られたもの。たまたま僕が代表でいただいた。心の底から思う。 岡本祥吾

名将の下で真剣に
やってみたいと思った

中学校は軟式野球部で、友達と仲良くやればいいって感じ。でも、山崎監督（当時）に「学芸館に來ないか」と誘っていたので、名将と言われる人のもとで真剣にやってみたくまりました。僕らのチームは守備が弱く評価は低かったけれど、雰囲気は良かった。レギュラー以外の選手全員が気持ちよく補助に回ってスタンドで本気で応援した。

予選決勝で勝てたのは彼らのおかげ。

高校3年のときタイ・カンボジア研修に参加して、過酷な状況の中にいる現地の子供たちの本当にいい笑顔に出会った。僕の方が元気をもらった。あんな笑顔、自分ではできのようになって考えさせられました。笑顔と元気！大切ですよ。

「みんなが応援したくなるチーム」は、大学の野球部でも僕の目標でした。大学では自分たちで考えてやります。3年の春からキャプテンになって、四国の二次リーグだったチームが一次リーグに昇格して優勝し、神宮の全国大学野球選手権大会に初出場した。やっぱりチームメイトのおかげ。僕はだれよりも声を出しただけ。自分より人が活躍することがうれしいんです。野球をして良かったのは、メンタルが鍛えられたこと。一生付き合っていく仲間を得たこと。卒業後は営業の仕事に就くので、このメンタルで乗り越えていけたらと思います。

岡本祥吾

岡山市出身。高知工科大学経済・マネジメント学群4年。操南中学校出身。特別進学コース卒。第97回全国高等学校野球選手権大会に出場したときのキャプテン。森嘉吉記念賞受賞者。

「なんでおまえがキャプテン？」——自分ができることは何だ？「ベンチに入れない選手が応援したくなるチームをつくろう」

20年前、受験に失敗して学芸館に入学。一番変わったのは自分自身だ。
今、教師として母校の教壇に立つ。生徒たちの変化を支えていきたい。

今から20年前、受験に失敗して学芸館に入学。夏が過ぎてもすべてに中途半端でふてくされていた。秋になって野球部の甲子園出場が決まり、応援団に誘われた。大きな声を買われ、甲子園のアルプススタンドのエール交換に抜擢された。一体感が心地良く、学校を好きになり始めた。2年生で軟式野球部を立ち上げ、生徒会長に立候補した。「母校愛を持つとう」「文化祭と体育祭は生徒が主役だ」「制服をちゃんと着よう」と演説して当選。あいさつ運動やリーダー研修に本気で取り組んだ。全校を巻き込んだ改革は学園を大きく変えた。一番変わったのは自分自身。10年前から教師として母校の教壇に立つ。生徒たちの変化を支えていきたい。 教頭・小笠原健二

1年足らずで 激しい化学変化が

宇根 小笠原先生から生徒会の顧問を引き継いで2年目。体育祭や文化祭などの行事ごとに「新しいことをやりたい」と

生徒らは言っています。

小笠原 決められたことだけやったら「おまえたちのオリジナルはどこにある!」と先生からダメだしをされるし、「去年と同じことをしている」と理事長にも指摘されるしで、先輩を超えようと必死なんだよね。

宇根 生徒みずから運営のかなり深いところまで考えて動くようになったのは、いつからなんでしょう。

小笠原 僕が1年生の頃は先生に言われたことだけをやっている感じ。生徒会は何をやるどころなのか定義がなかった。学校の風紀もあまり良くなかった。自分が生徒会長になったとき、当時生徒会担当だった森雄次郎先生と一緒に「学園改革しよう」と決めて、全校集会や西大寺駅前で服装やあいさつを良くしようと呼びかけることから始めていった。

宇根 最初からみんな協力してくれたんですか。

小笠原 甲子園の応援団を一生懸命にやったおかげで野球部をはじめ運動部の人たちが率先して力を貸してくれた。親との約束で勉強も頑張っていたからクラスメイトも応援してくれた。雄次郎先生

が「義務をしつかり果たしてから権利を主張しよう」といつも言っていたので、まず自分たちがきちんとしようという意識が生徒たちに浸透していったんだと思う。1年足らずで激しい化学変化が起きた。いい意味でのね。

自分も

こんな先生になりたい

宇根 僕が入学した学芸館はすっかり生徒の服装やマナーが良い高校でしたよ。ただ、生徒会に対しては活気を感じませんでした。

小笠原 劇的な変化も10年たてばマンネリになる。中だるみしていた時期だったのかもね。

宇根 高2のとき東日本大震災のボランティアに行くバスの中で、顧問の小笠原先生から生徒会に誘われて。そのときは「やりたくない」と突っぱねたけど、帰りのバスでは「チャンスから逃げたらダメだ」という心の声を聞いていました(笑)。被災地に行って変わった。

小笠原 いい顔してたもん。こいつ、

もこんな先生になりたいと思いました。

小笠原 いいこと言うなあ(笑)。一緒に東北に行ったとき、すごいリーダーシップのある子だなと思ったよ。でも斜に構えて素直に出さない姿が、ふてくされていた高校1年の自分と重なったんだ。この子が生徒会長になったらもつといい学校になる。自分が変わったように、変わってほしい。自分が雄次郎先生にもらったようにサポートしたただだよ。

宇根 今度は僕がその役目なんです。学校を良くするために何をするか、みんなで共有していきたいです。

小笠原 教師がおぜん立てをするのではなく、生徒自身から出てきたものじゃなきゃダメなんだ。そのためには「母校愛」が育つ土壌をはぐくんできたいよね。

君の望む君は、 母校に愛と誇りを持てる人

小笠原健二（写真右）
岡山市出身。本校スーパーVコース卒。元生徒会長。早稲田大学・大学院を経て、民間のコンサルティング会社に勤め、平成21年から本校社会科教員。令和元年度より教頭。

宇根亮佑（写真左）
岡山市出身。本校スーパーVコース卒。元生徒会長。明治学院大学に在学中、1年間オーストラリアに留学。平成30年から本校社会科教員。



生徒会・リーダー活動
生徒会執行部を中心に、各学級委員長、部活動の主将などのメンバーでリーダー組織を構成。毎年4月のリーダー研修で、生徒の模範となるマナーや礼儀を学び、体育祭や文化祭など年間行事の企画運営について話し合う。自分たちで学校を良くしていくという自覚と自主的な企画運営で、学校に活気をもたらす存在。



君の望む君を、支える人

山根みちる

兵庫県佐用郡佐用町在住。看護師。会社員の夫、子供4人の6人家族。長男はスーパーVコース卒（大学3年）、長女は英語科卒（大学1年）、二女は特別進学コース3年、三女は特別進学コース1年。学芸館高校の保護者として6年目を迎えている。



親学講座

父母の会が主催する、親のための学びの講座。森靖喜理事長や森美智子参与のほか、校内外から専門家を講師に迎え、日本の歴史や戦後教育の変遷、親のあり方、心構えなどを学ぶ。毎回参加者が100名を超える、熱気あふれる講座となっている。



タイ・カンボジア研修

隔年12月実施。全校生徒対象。現地の小学校や孤児院、日本語学校を訪ね、現地の子どもとの交流や貧困地域への視察を通して、自分がいかに恵まれた環境にあるかを理解し、生きる意味をみずから問う。アジアの現実を知り、学べる幸せに気づく旅。



「俺」ここに来る。決めた!」。オープンスクールの見学を終え、車に乗った瞬間、長男は言った。初めて訪ねた学芸館。生徒はみなとても楽しそうに輝いていた。自宅から学校まで電車を乗り継いで片道2時間。朝4時に起きて弁当を作る生活の始まりだ。朝は私が車で駅まで送り、夜は最終便に合わせて夫が迎えに行く。佐用町の冬は厳しい。凍てつく朝はきついときもある。でもつらいと感じたことはない。皆勤を続ける息子と共に頑張っていると感じられたからだ。長男の入学から6年。すっかりこの生活が当たり前になった。三女が卒業するまであと2年。いや2年しかない。今はそんな思いに至っている。 山根みちる

「学校に行かせてくれてありがとう」

私たち夫婦は、成績うんぬんより、子供に広い視野を持ってほしい、世界にいろんな国いろんな言葉があることを理解してほしいと考えています。長男は自分が選んだ学芸館で勉強と部活の充実した毎



長男が現地から送ってきた感謝のハガキ

日を送っていましたが、1年生でタイ・カンボジア研修に参加して変わりました。スラム街の子供たちに出会って、自分の立ち位置が見えた。帰国した日に「学校に行かせてくれてありがとう」と言いました。そこからです、目が広く外へ向かうようになった。彼らのために何かしたい。それにはまず英語が堪能になること。好きな英語をさらに勉強するようになって、2年生で再びタイ・カンボジア研修に参加しました。卒業後は立命館大学に進んだんですが、「もって国際色の濃いところで学びたい」と、難しい試験を突破して立命館アジア太平洋大学（APU）に編入。「貧

学芸館の先生は子供を否定しない

しい留学生に負けたくない」と、仕送りゼロを宣言して自活しています。おかずの魚を求めて別府の海で釣りをしたり、タイへ一人旅に出たり。びっくりするぐらいたくましい。それも、あの高校3年間を乗り越えた彼のスタイルなのかなあと。わが子ながら感心します。兄から話を聞いて、その成長する姿を見たからか、結局、娘は3人とも長男に続くように学芸館を選びました。

学芸館の先生は子供を否定しない。受け入れて、聴いて、相談に乗って、一緒に進路を考えてくださる。親が教えてやれないことを、先生たちが教えてくださる。ものの見方や考え方を知って、社会人になる前の土台づくりができる。私は応援するだけです。栄養のバランスを考えてしっかり食べさせる。遠距離通学にもハードな部活にも耐えられるように、夏も味噌汁は欠かしません。合間に栄養補給ができるように、余分のおにぎりやバナナも必ず。



“往復4時間”を頑張る姉妹

私たち夫婦も親学講座で学べて視野が広がった。授業参観とか行事とか、自分が高校生に戻った気分が楽しい。18歳のとき、私には夢中になれるものも真剣に取り組むものなく、ただ漫然と過ごしていた。だから、わが子が目標や夢を持って頑張っている姿がまぶしい。うれしいんです。利他の心が自分にも生まれたのかな。当たり前を当たり前と思わない。感謝やなー、感謝しようなーってよく子供と話します。この生活が残りの2年かと思うと、寂しいです。

「俺」ここに来る。決めた!」。オープンスクールの後、車に乗った瞬間、長男は言った。片道2時間。朝4時起きで弁当を作る生活が始まった。そして3人の娘も続く。



君の望む君は、本質を学ぶ人

学芸館の教師陣には専門分野のプロがいる。教育理念に共感し、教科指導だけでなく、生徒の進路や将来に広い意味でかかわっている。

学芸館の教師陣には専門分野のプロがいる。予備校や塾で、スーパー講師といわれる人たちだ。みな優秀で、指導力の高さは折り紙付き。そのうえ謙虚で誠実な人柄。学芸館とのかかわりは10年以上に及ぶ。生徒からの信頼も厚い。最大の特徴は、担任をはじめとする常勤の教職員との一体感。生徒一人ひとりをどう伸ばし、成長につなげるか。目標を共有し、常勤・非常勤の区別なく共に最善の方法を模索し続ける。抜群のチームワークが、「学芸館マジック」の一端を担っている。副校長・加藤武史

教育理念への共感が チームワークの良さに

山西 学芸館に来ることになったきっかけは、教育理念に大いに共感したからです。日本人精神や礼儀作法など、社会で成長していくうえで一番大事なことを教えている。その前提があるので、伝わる授業をしようと力が入るし、生徒もちゃんと聴いてくれる。非常勤だから自分の

授業だけ、教科だけというのではなく、担任の先生とクラスの情報を共有し、生徒の進路や将来に広い意味でかかわれる。楽しく、やりがいのある仕事です。

堤 「人の目を見て話ができる」「放課後の掃除がきちんとできる」「部活と真面目に向き合える」。日々、当たり前のことを一生懸命にやる。それができない高校生も多いですからね。

村田 学芸館には人間教育の真髓があります。私自身、触発され、こたえようとして頑張って、評価されて、また頑張る。その繰り返しで十数年たちました。予備校講師がこんなに長くかわれる学校は珍しいと思いますよ。受け皿が整っていて、連携がスムーズ。ありがたいです。

音田 僕は学生時代から予備校が大嫌いで、学芸館に着任した頃は非常勤の先生方に反発心がありました。でも、実際に生徒のことを相談すると、それほど真剣に考えてくださっているのが伝わってきて、偏見は吹き飛んだ。「この生徒のこういうところを伸ばしていきたい」と相談すると、すぐに対応して授業で取り入れてくださる。何より、授業の質がとても高い。僕も現役時代にこの授業を聴き

たかった（笑）。
堤 頼まれたら基本すぐします。当然のことです。

音田 生徒のためなんですよ。それがうれしい。

加藤 非常に優秀な人が謙虚である。その素晴らしさを、人間性を通して生徒にじんわりと教えてくださっている。また、常勤・非常勤の関係なく教師が仲良く、信頼し合っている関係性は、生徒に安心感を与えます。チームワークの良さは学芸館の要ですよ。

勉強と部活をどう 両立させるのか 一緒に考えていくのが 教師の役割

岡本 学芸館には以前から文武両道へのこだわりが強い生徒が多かったけれど、その度合いがさらに激しくなっていて、究極の形になりつつあると感じています。

村田 文武両道を目指す、自分の時間をメイキングできるようにする。時

間があると案外勉強しないもんなんです。忙しい中どうやって勉強してるんだろうという意外感が、正しい道なんだろうと思いますね。

堤 時間のやりくりは、頭で考えるより、生活の中で身につけていく方がいい。部活をする良さでしょう。

村田 勉強したら好奇心がどんどん刺激され、あれもやりたいこれもやりたいとなるのは当然で、後はバランスをどうとるか。そこを僕たち教師が知恵を出してアドバイスをする。みんなの1時間を、自分は30分でどうやるか。生徒が「そうか！その方法があるのか!!」と思えるかどうかが大事な指導です。

山西 テストで点を取るためのテクニックなんてどうでもよくて、大切なことは、本質との出会い。勉強する意味や面白さを生徒に体験させることができるかどうか。教師の責任は重い。学校と予備校の違いはそこです。本質的な勉強さえきちんとやれていたら、高3の夏まで部活をやっても、残り半年ぐつと集中して勉強すれば、希望の大学へ合格できる。目指すべき王道です。

岡本 普通に勉強して大学に入るのが一



山西 徹（写真前列右）
兵庫県出身。京都大学卒。塾・予備校等で講義やシステム開発・講師研修を担当。平成18年から本校数学講師。医進サイエンス・スーパーVコース担当。

加藤武史（写真前列左）
岡山大学卒。進学塾・予備校に勤務。平成14年、本校に進学指導部長として赴任。平成16年から教頭。平成25年から副校長。

堤 智哉（写真後列右）
兵庫県出身。立命館大卒。河合塾では年間500コマ以上の英語授業を担当。テキストや模試の作成等にも携わる。平成18年から本校英語講師兼任。

音田高志（写真後列右から2人目）
大阪府出身。神戸大学を経て岡山大学大学院へ。平成25年から本校理科教員、医進サイエンスコースの化学を担当。

岡本昌之（写真後列左から2人目）
京都府出身。滋賀大学を経て、塾・予備校に勤務。その後、中央大学に編入。平成19年から本校英語科教員、進学指導部長。

村田衛治（写真後列左）
兵庫県出身。関西学院大学卒。河合塾講師。現役予備校アカデミクス代表。平成18年から本校英語科講師。医進サイエンス・スーパーVコース担当。

昭和41年、日本の私立高校で初めて設置された学芸館の「英語科」。 日本人として日本を背負っていく心構えを説いて送り出しています。

昭和41年（1966）、岡山学芸館

の「英語科」は日本の私立高校で初めて設置された。飛行機に乗る日本人が珍しかった時代、2年後には最初の留学生をアメリカに送った。現在の約1年間留学のプログラムは平成3年（1991）にスタート。

「あなたたちは日本人として日本を背負っていくのだから」と準備に時間を割き、日本の歴史や文化を学ばせ、生活面のしつけを見直して15人を送り出した。以来今日まで留学生に「日本人として日本を背負っていく」心構えを説き続ける。高い精神性を備えたエリートを育てることが、英語科の教育目標だから。赤松康子

留学前にしっかり準備する

松本 留学前にしっかり準備するのは、他にはない学芸館の特徴ですね。私も若い頃に留学しましたが、ふだんの生活からちゃんと外国に行ってしまったし、ほとんどの留学生がそうだった。今も大差ないはずですよ。

ニコル カナダもそうだよ。

赤松 感性が柔らかい高校生での留学は10倍の価値があるんだけど、自分のことがどこまでできるのか、家族とどうコミュニケーションをとれるのか、育った家庭によって個人差が大きい。留学を楽しく、実りあるものにするために、準備が大切ということです。

ニコル クラス全員が約1年間留学するプログラムはカナダでも珍しい。2カ月だとずっと楽しい。観光気分ね。でも1年だとジェットコースター。「楽しい」の後につらい、苦しい、また楽しい、というふうに成長する機会がたくさん。つらい経験が大事。「約1年間留学」の意味は大きい。

松本 子供がつらいと訴えてくると、親は心配でたまらない。でも親が介入すると、子供の成長する機会を奪うし、かえって状況をこじらせてしまうことになりかねない。保護者の方には、「しっかりと聴いて、そうね、大変ねと言ってください」とお願いしています。子供は解決策を求めているんじゃない、気持ち分かっているだけ。聴くだけで十分なんです。ほとんどのケースは子供が自

分で解決しています。

留学経験やスキルをどう生かすのか

ニコル 留学から帰国したら、ソフトランディングね。ニコルの授業はまだカナダでいいよ、シドニーでいいよ、君らの気持ち分かるよって。

赤松 生徒は異国のまま異文化のまま帰ってくるでしょ。それに対して「日本はこうよ」と言われると、自分の1年間を否定されたような気持ちになるのよね。

ニコル 日本は日本、学芸館は学芸館、変わってないから、どうしてもギャップが出てしまう。そこをお互いに少しずつ分かっていかないとね。少しずつが大事。

松本 帰国前の保護者会でそのお話もさせていただくんですが、一方で、親として留学の成果を早く見たいと思うのも当然ですよ。TOEICのスコアだったり、大学進学先だったり。そこは教員として結果を出さないと、とは思っています。

赤松 約1年間の留学をしたら、子供はすぐに伸びると親御さんは思っておられる。でも、成果がいつ出るかは一人ひとり違うんです。すぐに出る子もいれば、大学に行って出る子、社会人になって出る子、結婚して親になって出る子もいる。でも必ず、どの子にも絶対に留学はプラスになっている。信じて待つてあげてほしいなと思います。

松本 英語科が目指す「グローバル人材」とは、「英語ができる、留学した、異文化を知っている」だけではなく、そのスキルや経験をどう生かして国際社会に貢献するのか、その視野を持つ人のことだと思えます。そのために赤松先生をはじめ、かわる方々が力を尽くしてこられた。それを引き継ぎながら、さらに発展させることが私たちの役割かなと。今年は「求めるグローバル人材」を分か

りやすく解説して「心を開く人」「思いやりのある人」「挑戦する人」「コミュニケーションができる人」と教室に張り出して、週ごとや月ごとのテーマにしてみようかなと考えています。

赤松 すごくいいアイデアだと思う。生徒の反応が楽しみです！



君の望む君は、 世界に羽ばたく人

松本敦子（写真左）

三重県出身。関西学院大学法学部卒業後、企業勤務、翻訳者を経て、平成25年から本校英語科教員、英語科科长。

赤松康子（写真中）

岡山市出身。ノートルダム清心女子大学卒。平成元年から英語教員として本校に勤務。英語科設立に関わる。元英語科科长。現在は国際教育センターの海外交流事業コーディネーター。

Nichol James(ニコル・ジェイムズ)（写真右）

カナダ出身。ジャーナリズムを学び、来日前はラジオ局のニュースキャスターやレポーターとして活躍した。平成25年から本校英語科教員。



国際理解教育

国際社会で活躍する日本人の育成を目指した教育と、そのための環境づくり。高校生のうちから視野を広げ、異文化を理解して外国人と分け隔てなく接することができる素地をつくることは、日本人としての自覚や誇りを育てることにもつながる。毎年多くの留学生を受け入れ（平成30年度 251名）、全生徒を対象に「台湾」「タイ・カンボジア」「ミャンマー」「シンガポール・マレーシア」への研修旅行を実施している。



SGH

グローバルリーダーの育成を目標に文部科学省が平成26年度より推進する事業。岡山学芸館は平成27年度、岡山県の私立高校で初めて指定を受け、英語科と清秀高等部・医進サイエンスコース・スーパーVコース・特別進学コースの生徒が、「開発途上国の貧困」をテーマに「知り・考え・実践する（貧困を是正するアクション）」活動に取り組む。指定終了後も学校として継続的に実施していく。

国際教育センター

世界各国の高校や教育機関と提携してネットワークを結び、岡山学芸館の国際交流事業を進める拠点。留学生への日本語指導をはじめ、学習面・生活面を全面的にサポートし、日本の大学への進学を支援している。また、キッズイングリッシュクラスなど地域社会にも広く国際交流の輪を広げている。



君の望む君は、努力し続ける人



強化部活の近年の実績

男子サッカー部

第97回全国高校サッカー選手権大会ベスト16(平成30年度)
平成30年度中国新人高校サッカー大会 優勝
全国高等学校総合体育大会(インターハイ)4度出場(最高成績ベスト16)
全国高校サッカー選手権大会 2度出場(最高成績ベスト16)
第97回全国高校サッカー選手権大会 日本高校選抜選手1名選出

硬式野球部

第97回全国高等学校野球選手権大会 出場(2015年)
平成29年度秋季岡山県高等学校野球大会 優勝
第129回秋季中国地区高校野球大会 出場
第100回全国高等学校野球選手権記念岡山大会 準優勝
平成30年度秋季岡山県高等学校野球大会 ベスト8
第101回全国高等学校野球選手権大会 出場(2019年)

バスケットボール部

平成29年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会出場
ウインターカップ2017平成29年度 第70回全国高等学校バスケットボール選手権大会出場
第70回岡山県高等学校バスケットボール新人優勝大会 第5位
第71回高等学校バスケットボール春季優勝大会 第3位
第62回高等学校バスケットボール選手権大会出場
第57回高等学校総合体育大会バスケットボール競技の部 第3位

男女テニス部

第57回中国高等学校テニス選手権大会 男子団体2位
第12回中国高等学校新人テニス大会 男子シングルス優勝 男子ダブルス優勝
第2回中国近県選抜高校テニス大会 男子団体優勝
平成30年度全国高等学校総合体育大会(インターハイ) 女子シングルス優勝、女子団体第3位
平成29年度、平成30年度 全国私学高等学校テニス選手権大会 女子団体優勝

「サッカー部を強化したい」と招聘され、大学時代からの仲間と共に、プロのサッカー選手が教員としてやってきた。

「サッカー部を強化したい」と招聘され、大学時代からの仲間高原と共に、岡山学芸館へ教員としてやってきた2003年。部員たちとの初顔合わせで啞然とした。サッカーグラウンドはなく、「スクールウォーズ」のようなやんちゃ集団。意識を変えるため、部員の中に入って全力でプレーし、高い技術で魅せ、圧倒した。「やるからには負けたくない！本気で強くなるぞ！」「みんなに応援してもらえるチームになるうー」と説いた。2012年に岡山県大会で初優勝し、その後は選手権やインターハイでベスト16を2回。強豪の仲間入りを果たした。でも、道半ば。もっと強くなる。頂点を目指す。 吉谷 剛

大事なところで「結果」を出すのは、こつこつと努力を重ねてきた選手

高原 今までやってきて絶対に自信を持って言えること、それは、大事なこ

ろで「結果」を出せるのは、こつこつと努力を重ねてきた人間であるということ。 吉谷 去年の秋、全国大会出場をかけた県大会決勝で延長ゴールを決めた選手は、入部したときBチームで、レギュラー選手とだいぶ力の差があった。でも腐らずさぼらず、部活も自主練習もこつこつ頑張って、大舞台で奇跡を起こした。選手権大会もそう。0-2のビハインドから逆転で勝った試合も、立役者になったのは真面目にこつこつと練習を続けてきた選手だった。

高原 練習はうそをつかない。だから監督として生徒に真剣に伝える。「本気でやらなきゃ意味ないよ」「すげー感動を味わいたくてやってるんだろうが！」って。

吉谷 僕はレギュラー以外の選手も見ているから、彼らには「サッカーは試合に出る出ない、上手下手だけじゃないよ。大人になってからの方がもっと大事」と、取り組み方や考え方を伝えることも多い。いまの努力がたとえ部活では花開かなくても、絶対に人生のどこかで実を結ぶからと。部員が多くなって試合に出られない選手のモチベーションをどうやって維

持するか、難しいけれど、僕の役目だと思ってる。

勉強との両立、生徒が偉い」

高原 どんなに練習がハードでも学芸館の部活は「文武両道」が基本。勉強も頑張る。学校生活もルールを守って模範となる。その結果として「みんなに応援してもらえるサッカー部」になる。今、学校の内外で存在感を認めていただくようになったのは、そこを目指してやってきた成果だと思う。

吉谷 生徒が偉いんよ。10分15分の空いた時間に英単語を覚えたり、遠征のバスで移動中にみずから辞書を開いたり。感心するわ。

高原 3年生で卒部すると、勉強モードにスイッチを切り替えて大学受験に集中する雰囲気、先輩から後輩へ、伝統のように受け継がれている。サッカー漬けの学生時代を送ってきた僕らができることは、どこでも勉強ができる環境を心がけることと、両立の相談に乗りながら担任や教科の先生たちと

情報共有することぐらいだ。

吉谷 勉強に関しては僕ら大した役に立ってない。だから言ってるじゃん、生徒が偉いんだって(笑)。

高原 最近よく思うんだ。毎年感動の涙を流す仕事をさせてもらえていることが、どれだけありがたいか。その感動が、僕は教員を続ける限り繰り返して味わえるけれど、生徒は限られた3年間の中で味わうしかない。その機会をどうつくれるか。僕らにかかっている。

吉谷 負けて流す涙も価値はある。後で必ず生きているから。でも、勝って泣きたい。いや、泣きたいわけじゃないんだけど、泣けるんよ、感動して。あの瞬間のためにやってるのかもしれないと思う。

高原良明 (写真右)
福岡県出身。東海大学卒。平成15年～18年ファジアーノ岡山在籍、岡山県国体強化選手。平成15年4月から本校体育科教員、サッカー部顧問。

吉谷 剛 (写真左)
大分県出身。東海大学卒。アルエット熊本(現ロアッソ熊本)を経て平成15～18年ファジアーノ岡山在籍、岡山県国体強化選手。平成15年から本校体育科教員。サッカー部顧問。



君の望む君を、支える町

堀田昌一（写真右）
岡山市出身。大東文化大学卒。
昭和59年に金山学園（現岡山学芸館高校）に入職。国語科の教諭となり、現在まで35年間勤務。

前田晃希（写真左）
岡山県出身。創価大学を経て、公立中学校に講師として6年間勤務。平成26年から本校英語科教員。柔道部顧問。



堀田 確かに。行事のたびに経験値が上がって、本番までの気持ちの高め方とか集中の仕方とか、知らず知らず身についているのかも。

前田 行事がない月は物足りなさを感じますよ（笑）。

堀田 これからもきっと新しいことがどんどん持ち込まれてくるよ。ありがたいお引き受けしていこう！



西大寺会陽
500年余りの歴史を誇る日本三大奇祭の一つ。学校法人森教育学園が「祝い主」を引き受けた平成23年以来、学校行事として定着。「はだか」で練り歩く生徒・教員は年々増え、ボランティアの保護者、女子生徒を含めると参加者は総勢700人に。



スクールガーデン
令和元年11月、西大寺駅前に完成予定。屋内には柔道部、チアリーディング部、ダンス部の各練習場など、屋外はテニスコートや芝生広場を備える。地域に開かれた施設として、生涯学習やふれあいの場として講座やイベントなどを実施する予定。



地域交流
西大寺マラソン、西大寺五福通りレトロマルシェなど地域のさまざまな行事に積極的に参加。地域のことを知り、地域の人と親しくなり、地域の役に立つ喜びを経験する。

会陽の日。学芸館のはだか集団が、西大寺の町の中を練り始める。
300人が寒さを吹き飛ばすように「わっしょい！ わっしょい！」

会陽の日。冬の夜空に花火が上がる

と、始まりの合図。コミュニティーハウスを出発した学芸館のはだか集団が、町の中を練り始める。生徒と教員の300人が寒さを吹き飛ばすように、わっしょい！わっしょい！声を張り上げ力強く進む。「待ってたぞ！」「今年も頼むよ！」「にぎやかにやってよ！」。沿道のあちこちから声援が飛ぶ。はだかだけでなく、和太鼓部は演奏、英語科生徒は外国人観光客への通訳と、活躍の場が増えた。地域で行事があるたびに協力を依頼される。「学芸館ならやってくれる」。期待値がどんどん高まってきているのを感じる。「地域になくてはならない学校」として、これからも全力でこたえていく。

堀田昌一

はだかまつりに出ることで「西大寺」に密着する

前田 はだかに参加する生徒は、運動部全般、生徒会、各クラスからの有志、文化部から和太鼓、演劇、吹奏楽あたり。

参加者が年々増えてきています。

堀田 祝い主を引き受けた平成23年は、顧問や先生に言われて参加することになった生徒のほとんどが最初は「なんぞ？」「恥ずかしい」「嫌だ」「寒い」という反応でね。ところが終わってみれば「面白かった」「燃えた」「良かった」という感想が大半で、ならばその気持ちを来年につないで教育の一環にしていこうと。今やすっかり学校行事に定着した。

前田 堀田先生にいきなり後継者に指名されてはだかまつりに出るようになったとき、僕も正直、えーって思いましたもん。でも、やってみたら楽しかった（笑）。

堀田 私自身、何度も宝木取りに参加して、会陽の醍醐味は身をもって知っている。生徒には楽しいだけじゃなく、参加する意義を感じてほしいかったので、次の年には、会陽に対する意識づけのためにホームルームで会陽の動画を流しながら歴史を解説し、「500年という歴史の中の1年を支え、次へつなぐのが君たちの役目だ。途絶えさせちゃいけない」という話をした。

前田 今は2年生から1年生へ、生徒自

身がちゃんと伝えてますよね。回しの締め方の講習会でも、西大寺会陽奉賛会の方が一通り説明してくださった後、すぐに2年生が1年生に教え始めて、スムーズに終わる。

堀田 会陽を守ってきた奉賛会の方に話を聞くことで歴史の重みを感じて気が引き締まる。回しを締めて気合が入る。スイッチオンのまま当日最高潮に達する。それを2年続けて経験することで、先輩から後輩へ生徒の間に会陽の伝統が引き継がれている。

前田 学芸館に3年間通ったというだけじゃなく、「西大寺」に密着した感じがすごく増すと思うんです。「あの有名な会陽に出たんだぜ、俺」って、誇らしい思い出として生徒の中に残るんじゃないですかね。

堀田 終わった後、全員がいい顔をしてるもんな。

団結力が「ここに学芸館あり！」

前田 はだかまつりそのものは男の祭りだけど、「私たちに何かできることはありますか」と女子生徒が申し出

て、300人分の朱印押しや鉢巻きのアイロン掛けをしてくれて、炊き出しに女の先生は豚汁を、お母さんたちは焼きそば500食を作って、支えてくれている。撮影担当の先生たちは、毎年僕らがびっくりするほどの熱の入れようで工夫を凝らすし。クラスを代表してはだかに参加する生徒は、「祈願寄せ」を回しに入れ、仲間から託された思いを背負って出る。学校を挙げての行事になってますよね。

堀田 その団結力が「ここに学芸館あり」と強烈なアピールになっている。生徒も教員も「西大寺を盛り上げていくんだ」という気概を持っている。そういう熱のある取り組みが続けた結果が、地域の中に「何かやる時には学芸館に頼もうや」というムードを作り上げたんじゃないかな。

前田 頼まれたら断らない。やることを前提にやり方を考える。だから、とにかく行事が多い。準備が間に合わないんじゃないか、本番大丈夫かと心配になるときもあるんだけど、不思議と最後はうまくいく。それは、生徒の心の準備がすごいからじゃないかと僕は分析してるんです。



国際教育センタースタッフは、世界からの留学生年間200人をおもてなし



母校に戻り、学園を盛り立てる卒業生



保健室、図書室、ほっとルームのスタッフは
体と心のケアを担当



保護者の皆さんのおかげで親学講座10周年



事務スタッフは実務の要



理事評議員会・経営幹部

会は学園を支える大黒柱

令和元年、創立60周年。これからも私たちは未来を見据え、世界に通用する、誇りある立派な日本人を、心を一つにして育てます。



特別進学コースは文武両道の生徒と心を合わせて



生徒の人生の目標に向かって生徒と共に走り続ける医進サイエンスコース、スーパー V コース



魅力にあふれる清秀中学校・高等部



世界に羽ばたく 力を伸ばす英語科



いつも生徒と一緒に頑張る進学コース



岡山学芸館高等学校 平成31年度入試 大学合格一覧

主な国公立大学

大阪大学	1名	香川大学	14名	島根大学	1名	大分大学	1名
名古屋大学	3名	徳島大学	2名	弘前大学	1名	九州歯科大学	1名
九州大学	4名	愛媛大学	1名	電気通信大学	1名	京都市立芸術大学	1名
東京外国語大学	1名	高知大学	4名	新潟大学	2名	兵庫県立大学	3名
広島大学	9名	鳥取大学	1名	静岡大学	1名	岡山県立大学	5名
岡山大学	16名	山口大学	7名	滋賀大学	1名	広島市立大学	2名

主な私立大学

早稲田大学	6名	立教大学	9名	関西大学	18名	近畿大学	9名
慶應義塾大学	1名	中央大学	10名	立命館大学	16名	龍谷大学	11名
上智大学	8名	法政大学	7名	日本大学	9名	甲南大学	4名
東京理科大学	1名	学習院大学	1名	東洋大学	2名	神戸学院大学	18名
明治大学	7名	同志社大学	13名	駒澤大学	2名	神戸女学院大学	3名
青山学院大学	12名	関西学院大学	12名	京都産業大学	17名		

など 計154名

など 計504名

科・コースの紹介

英語科(定員25名)	2年次に1ヵ年の海外留学を経験して、TOEICや英検など、高度な英語力と人間力を身につけ、国内外の大学への合格を目指します。	
普通科(定員400名)	清秀高等部	6ヵ年一貫教育(内部進学者のみ)
	医進サイエンスコース	理系に特化したカリキュラムで、医歯薬系学部の大学への現役合格を目指します。
	スーパーVコース	文系・理系ともに高い学力を養成し、難関国公立大学・最難関私立大学への現役合格を目指します。
	特別進学コース	部活動とも両立しながら、国公立大学・難関私立大学への現役合格を目指します。
	進学コース	部活動にも集中でき、充実した楽しい学校生活を送りながら大学・短大・専門学校への進学、地方公務員、就職を目指します。

令和元年

岡山学芸館の教職員数	176名
岡山学芸館高校生生徒数	1228名
清秀中学校・高等部生徒数	266名

令和元年 岡山学芸館創立60周年 日本人精神をつなぐ

発行	令和元年8月28日
発行所	学校法人森教育学園 〒704-8502 岡山市東区西大寺上1丁目19-19 電話 (086) 942-3864 URL http://www.gakugeikan.ed.jp/ E-mail info@gakugeikan.ed.jp
企画・制作	株式会社WACT
デザイン	FARMS DES STORE
表紙イラスト	design&illustration 171
人物撮影	加藤晋平 野上明子
印刷	株式会社三門印刷所

創立60周年記念誌 責任者 森 美智子

令和元年、岡山学芸館は創立60周年を迎えました。現在の学園が、私の期待以上、想像以上の発展を遂げたことは本当にうれしく、すべての方々に感謝いたしますとしか申し上げようがありません。生徒の笑顔、きらきらと輝く明るさは、学芸館の教職員と保護者の方々の思いが一つになった結果でしょう。

またこのたびは、全国高等学校野球選手権岡山大会で優勝し、岡山代表として令和初の甲子園出場という、全校生徒、保護者、教職員にとって最高のプレゼントをいただきました。感動と感激で胸がいっぱいでございます。さらに岡山県高等学校野球連盟より、「応援表彰」もいただきました。応援団のマナーやあいさつ、試合後のスタンドの清掃が評価されたと聞き、「文武両道」「人間教育」を掲げる学園の総合力が発揮された証と感慨深いものがあります。

60周年記念誌は、ふだんなかなか表に出ることのない、学園のさまざまな深い想いをまとめました。なぜ岡山学芸館が「奇跡の学校」といわれるのか。学園に関係するすべての人が「立派な日本人を育てる」という大きな志のもと、自身の目標に向かって情熱を絶やさず愚直なまでの努力を重ねているからにはなりません。その心の一端でも読み取っていただければ幸せでございます。平成から令和、そして未来へ。日本人精神をつなぐため、私たちは全力で取り組んでまいります。

編集後記

昭和56年（1981）と62年（1987）、文部大臣賞表彰。

昭和45年（1970） 勲四等旭日小綬賞を受賞。

昭和35年（1960） 学園創立と同時に、理事長兼校長に就任。学園の充実発展に心血を注ぐと共に岡山県私学協会長として県下の私学振興にも多大な功績を残す。

昭和34年（1959） 岡山県立西大寺高等学校校長を最後に定年退職。学校法人金山学園及び岡山県西大寺女子高等学校（現学校法人森教育学園及び岡山学芸館高等学校）の創設に尽力。

昭和33年（1958） 岡山県立西大寺高等学校校長を最後に定年退職。学校法人金山学園及び岡山県西大寺女子高等学校（現学校法人森教育学園及び岡山学芸館高等学校）の創設に尽力。

昭和32年（1957） 香川県に生まれる。

大正13年（1915） 東京高等師範学校卒業後、教職に就き、旧制愛媛県大州中学校、旧制岡山第二中学校教頭、岡山第二高等女学校長（現岡山県立岡山朝日高校）を歴任。



学園創立者
森 嘉吉 前学園長

沿革

1960年創立	理事長兼校長に森 嘉吉氏選任
1966年	英語科を新設（英語科は全国私学で最初に設置）
1968年	第1回海外留学生をアメリカに派遣
1986年	理事長兼学園長に森 嘉吉氏、第2代校長に森 靖喜氏就任
1989年	大韓民国仁川外国語学校と姉妹校の締結 理事長兼校長に森 靖喜氏就任
1991年	オーストラリア1ヵ年留学プログラムを導入
1992年	オーストラリア・シービューハイスクールと姉妹校締結
1994年	森教育学園 岡山学芸館高等学校に校名変更 オーストラリア・シドニーに現地法人「ICET」を設立 オーストラリア・デビッドソンハイスクールを始め、15のハイスクールと姉妹校締結 岡山備南ロータリークラブの提唱によりインターアクトクラブ発足
1995年	国際教育センター設置
1997年	タイ・プラティープ財団里親制度支援開始 西大寺ソロブチミストの提唱によりSクラブ発足
1998年	普通科特別進学コース新設
2001年	第73回選抜高等学校野球大会（春の甲子園大会）出場
2003年	ゼロトレランス導入（全国小・中・高校で初） 中国義烏校他と姉妹校の締結 普通科スーパーVコース新設
2004年	文部科学省よりSELHi（スーパーランゲージハイスクール）指定校に認定
2005年	財団法人 福武教育文化振興財団より英語教育重点校として助成 「7つの習慣J®」導入（全国の高校で初）
2006年	インド・プーネ市ファーガソンカレッジと姉妹校締結 オーストラリア国立8大学連合指定校に認定 教育後援会発足 さくら寮（女子寮）完成
2007年	カンボジア王国チェイ小学校内睦日本語教室との留学生受入協定に調印 親学講座開講 第1回学芸館フェスタ開催（岡山シンフォニーホール）
2008年	関西大学と「高大接続パイロット校」の協定締結
2009年	岡山学芸館高等学校創立50周年式典開催（岡山シンフォニーホール）
2010年	普通科医進コース新設 岡山学芸館清秀中学校開校
2011年	西大寺会陽祝主引受 ユネスコスクール認定校 理事長兼学園長に森 靖喜氏が、第3代校長に森 健太郎氏就任
2012年	台湾屏東高級中学と姉妹校締結 台湾三民高級中学と姉妹校締結 岡山学芸館瀬戸内サッカー場（人工芝グラウンド）完成
2013年	普通科に清秀高等部新設
2014年	岡山学芸館瀬戸内野球場完成 ユネスコ世界大会高校生フォーラム参加
2015年	文部科学省よりスーパーグローバルハイスクール（SGH）指定校に採択 第97回全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園大会）出場
2016年	オーストラリア・セントステイブンスカレッジ姉妹校10周年記念式典
2017年	瀬戸内占春寮（男子寮）完成
2019年	第101回全国高等学校野球選手権大会（夏の甲子園大会）出場 岡山学芸館高等学校創立60周年式典開催（岡山シンフォニーホール） 岡山学芸館スクールガーデン完成（予定）

学校法人

森教育学園

概要